

三島小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

○主体的に学習に取り組み、自分の思いや願いを豊かに表現できる児童の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長・総括 :
教頭・総括補佐 :
教務主任・中学年推進員 :
高学年推進員 :
低学年推進員 :
特別支援教育コーディネーター :

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習態度も真面目で、課題にも意欲的に取り組み、最後まで頑張ることができる児童が多い。	国語や算数の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、学習した漢字を進んで使って文章を書いたり、正確に計算問題を解くことができる。	年4回のまとめの漢字テストや算数の単元のまとめテストで、正答率が80%以上の児童を7割以上にする。			
課題 学習した漢字を、日記や作文の中で適切に使えなかったり、算数の基礎的・基本的な知識・技能が定着していなかったりする児童が見られる。	具体的方策(教員の取組) ①昼のドリルタイムに、継続的に漢字練習や計算練習をさせたり、定期的に漢字・計算ミニテストを実施する。 ②国語や算数の時間に5問テストを実施する。 ③日記や作文等に学習した漢字が適切に使えよう指導する。	取組指標 ①週に1回程度、定着確認テストを行う。 ②3問以上正答を目標とする。 ③毎日、日記の漢字をチェックし、たくさん漢字が使えている児童をシール等で賞賛する。		評価 次年度における改善事項	

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 経験したことをもとに、感じたことを書く力や自分の考えを相手に伝える力は、ある程度身に付いてきている。	教師や友だちの話を最後まで聞き、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを表現することができる。	「自分の考えを書いたり、進んで友達に説明したりすることができる」と回答する児童の割合を70%以上にする。			
課題 自分の思いや考えを筋道を立てて表現することに課題がある。	具体的方策(教員の取組) ①授業の中で、「書く・話す」場を意図的に設定する。 ②自分の思いや考えを話したり書いたりする機会を充実させる。 ③「聴く・話す」「発表の仕方」スキルを全校で統一し、児童の定着を図る。	取組指標 ①授業の中で、自分の考えを書いたり話したりする活動を一日に1回以上行う。 ②学習活動や行事の実施に合わせて作文や手紙を書かせる。 ③スキルを意識させ、授業中に使わせる。		評価 次年度における改善事項	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 朝の読書が定着しており、各学年の目標冊数を達成できている児童が多い。	いろいろなジャンルの本を進んで読むとともに、「家読、毎日10分」ができる。	「家読ができるようになった」と回答する保護者の割合を、去年より10%上げる。			
課題 読書量の二極化が見られる。また、家庭における読書の定着が不十分である。	具体的方策(教員の取組) ①朝の活動の火曜日と木曜日を読書にする。各学年の年間目標冊数及び選定図書を設定する。 ②本を借りよう児童に声をかけたり、学年だより等で保護者に呼びかけたりすることで家庭読書の習慣化を図るとともに、親子読書月間を設け、親子で読書に親しむ機会を作る。 ③担任は子どもの読書量を把握しておくようにする。	取組指標 ①10冊読むごとに達成賞を渡す。年間目標を達成した児童の割合を80%以上にする。 ②毎週末と「家庭読書の日」には必ず本を借りさせ、家庭学習として読書をさせる。 ③定期的に読書カードをチェックする。		評価 次年度における改善事項	

平成30年度 学力向上ロードマップ



